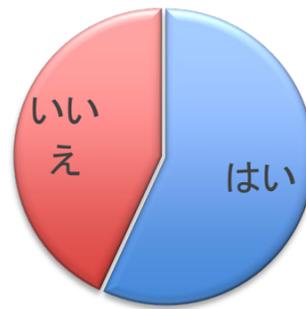


## 8: 職員の健康管理について

### 8-① 職員が産休や病休、看護休などをとりましたか。

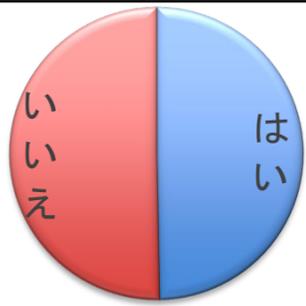
職員が休んだか	人数	%
はい	342	56.9%
いいえ	259	43.1%
合計	601	100%



岐阜地区	西濃地区	美濃地区	可茂地区	東濃地区	飛騨地区	合計
110	66	27	37	66	36	342
61	56	40	34	41	27	259
171	122	67	71	107	63	601

### 8-② 補充職員はすぐ入りましたか。

補充職員入ったか	人数	%
はい	170	49.7%
いいえ	172	50.3%
合計	342	100%



岐阜地区	西濃地区	美濃地区	可茂地区	東濃地区	飛騨地区	合計
53	20	21	15	40	21	170
57	46	6	22	26	15	172
110	66	27	37	66	36	342

### 8-③ ①で「はい」の方は、どのような負担がかかりましたか。

- |   |  |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>○授業の負担 97                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の補充</li> <li>・授業時数の増加</li> </ul> </li> <li>○補充授業の調整の負担 14</li> <li>○校務分掌の代行の負担 58                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・担任代行</li> <li>・校長代行</li> <li>・生徒指導主事代行</li> <li>・2名教頭の業務を1名で遂行</li> <li>・教務が担任業務を行うため、教務の業務の代行</li> <li>・事務職員の代行</li> <li>・部活動顧問代行</li> </ul> </li> <li>○業務の増加の負担 13                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・文書・資料の作成</li> <li>・期末テストの作成</li> <li>・朝の会や宿題の点検</li> <li>・自分の業務時間の減少</li> <li>・地域行事・地域会議への参加</li> <li>・地域や諸問題への対応</li> <li>・代理として出張</li> <li>・出欠確認と結果入力</li> <li>・予定管理や会計</li> <li>・校務・PTA業務</li> </ul> </li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>○補充職員への指導の負担 8                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・講師の指導時間の増加</li> <li>・本人や周りの職員への声かけ</li> </ul> </li> <li>○保護者・児童・職員への対応・説明の負担 10</li> <li>○職員の働き方の改善や補充職員の負担軽減のための負担 2</li> <li>○引継ぎや復帰支援の負担 12                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・引継相手への連絡・調整</li> <li>・引継ぎの支援・コーディネート</li> <li>・復帰に向けての計画・診察同行</li> </ul> </li> <li>○報告書作成の負担 5</li> <li>○補充者探しの負担 5</li> <li>○自分自身が病気休暇 2</li> <li>○負担無し 6                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・補充があったので負担無し</li> <li>・他の職員が担任になったため負担無し</li> <li>・事務職員だったのであまり負担無し</li> <li>・年度末と年度始めだったため教科部で対応</li> </ul> </li> </ul> |
|---|--|

## 8-④ 職員の健康管理について困っていること

### ○時間管理70

- ・責任感とこだわりのための帰宅時間の遅さ
- ・特定職員又は、若手職員の帰宅時間の遅さ
- ・在宅ではできない業務による帰宅時間の遅さ
- ・長時間勤務が常態化しているベテラン
- ・年休の取得するよう声かけが必要
- ・仕事量の多さ
- ・時間外や休日勤務の多さ
- ・小規模校故の一人当たりの校務分掌の多さ
- ・授業日の年休取得し辛さ
- ・職員自身の早く帰宅する意識の希薄さ
- ・勤務時間は長いが負担ではない意識
- ・自分は大丈夫だという意識
- ・時間外勤務時間80時間を超えぬよう指導
- ・休日に自主的に勤務
- ・若手の指導をするミドルリーダーの帰宅の遅れ
- ・年度当初の業務が多く超過勤務が増加
- ・研究関係の仕事の多さ
- ・行事や生徒指導で勤務時間が超過
- ・養護教諭が、3学年全ての宿泊研修に引率
- ・超過勤務をする職員を家族が心配
- ・無理をして働く職員の多さ
- ・やむを得ず出勤時刻は朝7時

### ○ストレス65

- ・スリム化への意識改革に困難さ
- ・職員間のつながりや人間関係の構築に難しさ
- ・納得のいくまでしたい職員が聞く耳持たず
- ・休みがちな職員へのかかわり方
- ・メンタルが弱い職員への指導、不協和音
- ・そもそも早く帰る意識が希薄
- ・校務分掌の偏りによる疲労
- ・全職員にまで目が行き届かず
- ・精神疾患のある職員への配慮
- ・産休補充がすぐに来るか不安
- ・いかに早く帰ることができるようにする
- ・精神面でのフォローが必要な職員の増加
- ・生徒指導主事が担任を兼ねているための負担
- ・出張が多く業務に支障
- ・心の悩みへの対応の仕方
- ・授業日の休みにくさ
- ・不適切な言動をする職員への配慮
- ・無理をしている職員に休むよう言うのは困難
- ・会議や研修時に休む職員への指導
- ・早く帰ることでストレスを感じる職員への指導
- ・積極的に相談に乗り、早く帰るよう声かけ
- ・生活習慣や他団体の活動にまで口出しできず
- ・時間外勤務の短縮は現実的に困難
- ・本人の困り感や疲労感を正確に把握できず
- ・保護者対応による心身の疲れ
- ・疲労感が抜けず
- ・健康管理への指導助言ができず
- ・特別支援学級の職員の物理的、精神的サポート
- ・生徒指導面の負担の大きさ
- ・社会で起きている事案への対応で職員が疲弊
- ・教材研究に充てる時間の確保

- ・諸調査の多さ
- ・担当授業数が多いため、生徒指導対応できず
- ・仕事量が多いため、無理を黙認せざるを得ず
- ・業務量と退校時刻のバランスのとり方
- ・リフレッシュデーの取り組みに対する無理解
- ・職員との面談時間を取りたいが、時間不足

### ○職員関係22

- ・職員数が少なく、一人当たり校務分掌の多さ
- ・職員の心身の健康状態の把握
- ・怪我の予防
- ・職員指導の時間不足
- ・業務内容に関してメンタル負担がないか心配
- ・欠員の補充がされず
- ・職員の家庭の問題
- ・思い切った行事の削減ができず
- ・女性特有の心身の事情の分かりづらさ
- ・若手職員の育成、メンタルの弱さ
- ・交通事故対策
- ・欠員3名、生徒指導主事と教務主任が不在
- ・ワーカホリックを疑うような働き方
- ・ベテラン職員の指導、マイペース過ぎるベテラン

### ○医療機関15

- ・面談や観察だけで健康状態の把握は困難
- ・病院の受診を勧めても受信せず
- ・補充職員が少ないため、医療機関にかかれず
- ・他への負担考慮し体調不良でも休むよう言えず
- ・職員数が多いため、病気で休む職員の多さ
- ・医療機関の診療時刻内に受診できず
- ・休んでも回復の見込みがなく解決策なし
- ・予防接種後にインフルエンザに罹患
- ・大病を患っている教職員
- ・職員集団が高齢で持病を抱える
- ・原因不明で時々、休む職員
- ・支援の必要な児童数に対する職員数が不足
- ・昨年手術をした職員への対応

### ○部活動7

- ・インフルエンザ予防接種の徹底の呼びかけ
- ・休日、平日の部活動(中学校)
- ・大きな負担

### ○年次休暇5

- ・フリーが教務と教頭だけで年休取れず
- ・年休取得者の補充が大変
- ・子供の健康管理で休むことが多い職員
- ・持病治療で休む職員の補充で慢性的な負担
- ・補充に入る教員の不足

### ○食事・生活・健康5

- ・若手職員の一人暮らし
- ・帰りが遅く、夕食を弁当で済ませる若手
- ・食事も取らずに遅くまで仕事
- ・職員の健康意識をいかに向上させるか

### ○体制2

- ・週1回、早帰りの日を設定
- ・勤務時間外の会議の設定(平日)

### ○その他1

- ・大学と学校の関係性

## 9: 要望事項(教育の諸条件改善、教頭の処遇改善)

9-① 教頭として強く要望したいことを次の項目から5つまで選んで、記号を○で囲んでください。

強く要望したいこと	人数		岐阜 地区	西濃 地区	美濃 地区	可茂 地区	東濃 地区	飛騨 地区	合計
ア. 児童生徒の安全確保のための具体的な措置の充実	309	51.2%	87	63	31	43	54	31	309
イ. 管理職手当の改善	111	18.4%	31	15	16	9	26	14	111
ウ. 通勤手当の改善	30	5.0%	5	4	7	3	9	2	30
エ. 教職員の旅費支給の増額	55	9.1%	6	7	8	6	17	11	55
オ. 教育相談担当職員の加配	258	42.8%	79	45	28	25	53	28	258
カ. 免許外指導解消のための教員の加配	201	33.3%	49	46	26	26	37	17	201
キ. 生徒指導、不登校及び外国籍の児童生徒等。 児童生徒支援のための教員の加配	413	68.5%	125	82	46	51	74	35	413
ク. 指導法工夫改善(少人数指導等)のための教員の加配	238	39.5%	56	62	31	30	34	25	238
ケ. 学級定員(児童生徒数)の改善(40人学級→35人学級)	416	69.0%	132	87	37	51	68	41	416
コ. 教員配当基準の改善	394	65.3%	119	73	48	37	77	40	394
サ. 現在の教頭を副校長として任用すること	10	1.7%	4	1	2	1	1	1	10
シ. その他(下記)	12	2.0%	6	2	0	1	3	0	12
	2447	404%	699	487	280	283	453	245	2447

その他の内訳

○特別支援指導員育成

- ・特別支援学級や通級指導教室の指導教員の育成の国や県による実行力ある施策を期待

○教員配当基準の改善に関して

- ・教職員の配置人数の増員
- ・一人一人の持ち時間や校務分掌事務の分散(働き方改革は、教職員の増員でかなり改善するから)
- ・学校規模にかかわらず(小規模校でも)教務主任を専任で配置してほしい。(2名)
- ・コーディネーターなどの役割を増やした分の教員配置
- ・教員の業務を教科指導に限定
- ・危機管理や防災にかかわる専門家の配置(中学校区に一人)
- ・学校に法律や条例に詳しく、その面でアドバイスしてもらえる人材の配置(スクールロイヤー)
- ・草刈りなどのサポーターの配置

○給与

- ・給料を愛知県水準へアップ

○修繕費増額

- ・修繕費など学校の予算をアップ

○チラシ, 通知文

- ・スリム化の一環として、県や市教委は、チラシなどe-mailで送付し、学校で増し刷りを依頼するのを禁止

○調査を削減

- ・アンケート等は極力減らして欲しい。

○定数改善 34

- ・定数の増加
- ・教頭の複数配置
- ・業務アシスタントの配置
- ・小学校低・中・高の学年部主任の配置
- ・小学校複式学級の解消
- ・学校規模の大小に関わらず、フリーの生徒指導主事・教育相談の配置
- ・病休補充のための講師の確保
- ・外国語、プログラミング教育の専門指導員の配置
- ・会計、事務の増員
- ・国庫負担の復活
- ・主幹教諭の全校配置
- ・小学校教科(図、音)専科のための加配
- ・学級数ではなく児童生徒数に応じた配置
- ・転入外国人児童生徒対応のための職員配置

○学校運営協議会 1

- ・地域学校協働活動推進員の配置

○保護者対応 2

- ・学校や教職員を守る制度や対策
- ・条例の制定

○児童生徒対応 1

- ・学校や教職員を守る制度や対策

○教職員の資質向上 4

- ・退職者の若手指導員採用
- ・職員の話に耳を傾ける管理職
- ・優秀な人材の確保

○人材活用 14

- ・ボランティアではなく、有償で募集
- ・支援員の増員
- ・教頭事務の補助員
- ・給食補助、環境整備ボランティア
- ・会計は外部に依頼
- ・市町教委による講師リスト  
(待機者にも最低賃金)

○事務効率化 3

- ・案内、調査、依頼の削減
- ・年度初め文書や職員調書の共有データベース化

○教育課程 6

- ・授業時数を標準へ削減
- ・ポスターや作文の募集作品制作の授業での扱いの禁止
- ・授業日数を減らし、標準時数で
- ・午前中に5時間授業
- ・宿泊研修の廃止

○スリム化 3

- ・県教委からの周知
- ・勤務時間の改善
- ・行事の思い切った精選、するとよい程度の業務の廃止

○勤務条件 15

- ・仕事量とメール量の削減
- ・給与の改善
- ・能力による給与体系
- ・警報発表時の対応は市町教委で実施
- ・残業手当への転換
- ・事務処理のオンライン化
- ・授業持ち時数を減らし、職員指導時間を保証
- ・学校が請け負う必要のない業務の削減
- ・出張や研修をテレビ会議システムで実施
- ・滞納者への催促は市町教委で実施
- ・新任教頭は地元付近で勤務
- ・校務支援システムの導入
- ・未消化有給の買取制度
- ・教務主任の担任の兼任廃止

○部活動廃止 4

- ・中体連からの脱退
- ・学校から切り離し